

# 松本清張記念館

◆館報◆  
2000.3  
第3号

## 完全なアリバイ



昭和三十七年（一九六二）十一月初版

光文社  
カッパ・ベルス

雑誌「旅」（日本交通公社発行）に連載。  
昭和三十六年五月号～昭和三十七年十一月号  
飛行機、写真のトリックにゲイ・ボーイ  
などの風俗を織り込み、魔術に登場する  
清張ゆかりの九州北部の風景描写は、  
読者を紙上旅行へと誘つた。

### 作品紹介

物語は門司・和布刈神事の描写で幕を開ける。相模湖畔で起こった殺人事件の容疑者、峰岡周一は神事を拝観していたと主張。フィルムにはっきりと撮し込まれた和布を刈る神官と、旅館の女中、女子。撮影の順序は供述の通りである。そして、相模湖から消えた女。容疑者によって周到に用意された「完全なアリバイ」に、三原警部補は疑念を抱く。

東京午後三時発の日航機に乗った男が、同じ夜に相模湖畔に立ちは、どんなトリックを使ったのか。「点と線」でおなじみの時刻表を使つた謎解きに、再度三原警部補と鳥飼刑事が挑む。

### 目次

- 心のふれあい小倉の思い出  
インタビュー 小野昭治 ..... 2
- 探検！ 清張記念館 ..... 5
- みんなの広場 ..... 6
- お知らせ ..... 7
- ふるさと小倉シリーズ③  
「時間の習俗展」 ..... 4
- 展示品紹介 ..... 5
- 北九州文学マップ ..... 7
- トピックス ..... 7
- トピックス ..... 8

# 心のふれあい 情張を語る

インタビュー

生涯変わる」とのなかつた、小野家との心あたたまる交流  
そこには「人間・松本清張」の姿がありました。  
子供のころから可愛がつてもらっていたという  
小野昭治さんに詮張との思い出を語つていただきました。

清張先生は、僕のおやじの弟の小野五郎と友達だった。おじさんは昭和十五年の四月十九日に戦死して、その一日後の二十一日に僕が生まれた。うちは女の子ばかり四人続いていたんで、五郎おじさんが出征するとき、うちのおふくろに「今度は男の子やから」つて楽しみにして出ていったんですよ。だから先生は僕を「五郎さんの生まれ変わりや」とよく言つてましたよ。

五郎おじさんから始まつて：



小野 昭治

福田大学商学部卒業。オーエンソーリー社長。  
専務取締役。北九州野球株専務取締役。  
運営委員。昭和十五年四月小倉生まれ。

おじさんと清張先生はどうして知り合ったんでしようか?

五郎おじさんがつくっていた草野球チームに清張先生も入っていたらしいんだ。二人は気が合っていたんだろうね。こんなエピソードがあるよ。  
お祭りの日に五郎おじさんと先生が父のサイドカー付きのハーレーダビッドソンに乗って出かけたらしいんだ。ところがバイクと側溝に落ちてしまつて、先生の新調の浴衣が破れてしまった。「五郎おじさん、緒について来ててくれたな、うちのおふくろに謝つてくれた」。清張先生はそんな話をよくしてくれた。昭和八、九年頃、まだ先生が独身の時のことだろうね。

おふくろは五郎おじさんの小倉中学校の父兄会に、親代わりで行つてたから、おふくろから見れば、おじさんの友達の清張先生も弟みた  
いな感覺なんですね。

お母さんの税金さんはどう計算ですか？

気が強いですよ(笑)。明治の女の気の強さというか、意志の強さというか。そのかわり、だつと言つたら後に全然残らない。

「つと言つたら後に全然残らない」

うちのおふくろの姉妹は全部お医者さん  
に嫁いでいて、いわゆる商売人のところに嫁に  
行つたのは、おふくろだけなんです。だから、か  
なり苦労はしてるんじゃないかな。生活が随分

お互いに遠慮のない間柄だったんですね。  
それくらい気ぜわしいおふくろだつて」と  
先生の方もよくわかつた。

こんなことでもあった。先生がテレビに出て  
のを見て、おふくろが電話をかけて「表情が  
い」って言うんだよ。先生と話しているのを聞  
たら、同じ年なんだけど姉さんと弟が話して  
るみたいで、「もつとあ」引いて話さな」「(あ  
を引いて)こうですか」ってな具合でね(笑)。  
お母様は清張先生のことをどのようにお  
しゃつてますか?

いつも「清張さんの爪の垢でも漬じて飲み  
さい」と言う。つまり「努力しろ」っていうこ  
なんだよね。それはつまり。

お母様は、清張先生が努力している姿を  
くご存じなんですね。

「作家つていうのは、ヒキがあつたり流れがあつたりするのが自分には無いから、努力する以外ない」つて書いてあるでしょ。

昭和三十一、二年頃ですね。「時々、東京なんか出て来すに、小倉で平穏な生活をつづけていた方がよかつたなどと考えることもあります」とありますね。

「来るんじやなかつた」つて書いてあるでしょ。

それは、おふくろが一番よく知っている。東京には出るのもかなり勧めていますね。うちのおふくろは、ものすごく東京志向なんですよ。母の番上上の姉が青山の英文科に行つた時、病気で亡くなつたから、祖父に「東京には絶対やられん」と言わされて、おふくろは行けなかつたんです。それでおふくろは子供全員を東京の学校に行かせた。先生にもいつも「東京行け」と言つた。だから、先生はおふくろへの手紙には、「(東京に)来るんじゃなかつた」って書いているでしょう。

清張が  
昭治さんの母・悦子さんに寄った手紙



# 小倉の思い出

聞き手・大西 政寛・篠原 礼  
構成・篠原 礼  
写真・林 晓子

「時には自信を喪失して滅入った気持ちになつたとき、力をつけて頂く心の支えとなつて下さるようお願い申し上げます」と書いてあります。素直な一面が見えますね。

先生は滅多にそういう弱気なことを言わな人でしょう。おやじやおふくろとはそういう間柄だったんでしょうね。

## 大衆食堂からやがて吉兆に

僕が東京の高校に行つた頃、訪ねて行くと先生が書斎から降りてきて、よく一緒に食事に行つた。今考えると、外に息抜きに出る口実を作っていたことと、僕へのサービス精神もあつたんだろうね。うちにはこういう食べ物の商売だから、食べる」とに経験を積まなきゃいけない。だから、いいところに連れてついてくれたんだろう。だんだん行く店が変わっていつてね。それだけ先れつ子の作家になつていくのを実感しましたよ。

初めはどういうお店なんですか？  
昭和二十一年だから、いいレストランなんていふのはほとんどないんです。今の不一家の前身くらいかな。一番最初は、渋谷食堂、大衆食堂ですよ。そこで食べて食べて…(笑)。

先生がお金持つてなくて、時計を置いて帰つたことがあつた。子供心にも心配でね。「食べ過ぎたつけ、俺、悪か」って本当に思つた。ところが、先生はそういうところは無頓着というか、年譜で調べたら、もうその頃には何本もベストセラー出しているから、お金を持ってないはずないんですよ。その後、コックドールっていう有名なフランス料理の店。しばらくして、四谷に石原裕次郎のステーキハウス・フランスが開店した

ら、すぐに連れて行つてくれた。それから、鉄板焼き、ホテルオーディナリーカーなど、あとは新宿に京王プラザができる時は、よく連れていってくれたね。そして最後は吉兆ですよ。僕みたいな若い者が普通いけないような店だからね。いろいろ経験させてくれたんだと思う。

## お食事しながらどんな話をするんですか？

文学の話は一切しなかつた。僕に文学の話をしてもしようがないから。僕は野球をしてたから野球の話とかね。それから僕の友達とか、人の名前をよく聞いてたね。「こういう友達がおつてですね」と言うと、「それは何ていう名前か?」つて。どういう字を書くとかね。

## 「親孝行せい」といつも言われていた

親がわりのような清張先生ですが、叱られたことなどはありますか？

それは全然ない。仕事には厳しかつたらしくけど、僕にはそれを微塵も出さなかつた。仕事の話もしなかつた。僕にはいつも「親孝行せい」と言ってたんですよ。

先生は政治家は嫌いだし、権力とのつき合いつていうのはない。正しいものは正しい、自分の眼で見て、悪いものは悪いという判断をしていた。だから、権威や権力で押さえつけようとするものへの反発がものすごくあつた。

小野さんは小倉との重要な接点だつたんですね。  
それも結果的に後でそうなつたという感じなんですね。先生はいつも小倉のことを気にされていた。だから会うと、「あの人どうされますか?」とか、「あの辺はどう変わつた?」とか、いろんなこと聞かれてたね。小倉に来たら必ず僕が運転手をして、いろいろな所を回つた。よく覚えてるんだよ。懐かしかつたんだろくなあ。

だから小倉市民会館で講演会をした時に、著書「五〇〇冊にサインをお願いしたのも、喜んで引き受けてくれた藤井館長から、「あの当時の仕事量を考えたら、大変なことをやつてくれましたね」と言つたよ(笑)。

## 作品の登場人物の参考にしたんでしょうか？

そうかなあ。あんまり気づかなかつたけど…。(笑)

# 時間の習俗展



トリックと昭和三十年代 Key word . 1

「時間の習俗」が書かれた昭和三十六年から三十七年は、「国民所得倍増計画」が政策として推進され、電化製品の普及、レジャーブームの到来と、好景気に湧いた時代でした。作中でも当時の流行がさりげなく描かれています。三原警部補の家庭では「この前やつと月賦がすんだばかりのテレビが据えられ、「ボーナスで二年前に買った」カメラなどの記述が時代を物語っています。また、アリバイ崩しの重要な鍵として、カメラのフィルムトリックが使われています。これは、カメラが好きで、写真集も出版している清張ならではのアイディアです。

Key word . 2 清張と俳句



清張は青年時代から俳句に親しんでいました。初期の作品「菊枕」や「花衣」(後に「月光」と改題)では小倉ゆかりの俳人を探り上げ、また、俳句を織り込んだ作品も数多くあります。「時間の習俗」冒頭でも和布刈神事を詠んだ俳句を引用し、物語序章の期待感を高めています。また清張作の俳句も登場します。容疑者峰岡が都府楼址で詠んだ句、「天平の礎石にわが影の凍ており」なども現代俳句の秀作と言えるでしょう。

旅心・古代史への興味 Key word . 3



この作品には和布刈神事をはじめ、小倉・大吉旅館、太宰府都府樓址、水城、鐘崎と郷土になじみの深い地名が登場します。幼い頃から抱いていた旅への憧れ。その土地にまつわる記憶や古伝を旅路の風景として描くことにより、作品に生き生きした命が与えられています。



(学芸担当 篠原 礼)

松本清張生誕90周年記念  
風間完講演会




松本清張の誕生日に当る十一月二十日、記念館地下企画展示室・映像ホールで講演会を開催しました。松本清張生誕90周年を記念したもので、講師には「昭和史発掘」、「霧の會議」、絶筆の「江戸譜談」等の挿絵を担当した、風間完先生をお招きしました。約百人の聴衆を前に、「天保図録」で清張とコラボを組んだ「天保図録」で清張とコラボを組んだ際の想い出話などを語られました。

松本清張のふるさと、北九州・小倉を主題にした企画展も三回目となりました。今回は初期長篇ミステリーの秀作、「時間の習俗」を取り上げています。この作品を読み解くいくつかのキーワードを紹介しましょう。

# パスポート



右が1968年発行のもの。サインは「K.Matsumoto」。  
左が1978年発行のもの。サインは「S.Matsumoto」。

松本清張の初めての海外旅行体験は一九六四（昭和三十九）年、五十五歳の時でした。コbenhavn、アムステルダム、パリ、ロンドン、ジュネーブ、ローマ、カイロ、ペイルートと、八つの都市を歴訪した清張。その行動力には実際に驚かされました。

一九六四年といえば、四月一日より一般海外渡航自由化となつた年。これにより、年二回、五〇〇ドル以内の海外旅行が自由となりました。この年の渡航者は十二万七千人に及んだといいます。清張は自由化が始まった四月のうちに、出版社幹部同行のもと早速ヨーロッパへと出発しました。この旅をきっかけに、あらためて取材し著したのが「アムステルダム運河殺人事件」です。このときの様子は雑誌『旅』に「ヨーロッパ20日コト

スをゆく」として掲載され、後に「はじめてのヨーロッパ」として「作家の手帖」に収録されています。

このヨーロッパ旅行を皮切りに清張はその後年平均三ヶ国もの諸外国を訪れることになります。そのほとんどが取材のために、「アムステルダム運河殺人事件」以外にも、「聖獣配列」「霧の會議」「詩城の旅人」「草の径」などに結実しました。時には、「世界推理作家会議」に出席するためフランス・ベトナムから招待を受け視察に、また文藝春秋主催の「ヨーロッパ文化講演会」講師として海外に赴いたこともあります。

松本清張の初めての海外旅行体験は一九六四（昭和三十九）年、五十五歳の時でした。コbenhavn、アムステルダム、パリ、ロンドン、ジュネーブ、ローマ、カイロ、ペイルートと、八つの都市を歴訪した清張。その行動力には実際に驚かされました。

現在記念館に展示している清張のパスポートは一九七八年の発行で、名前欄下にあるサインが「S.Matsumoto」となっています。しかし一九六八年発行のパスポートには「K.Matsumoto」とあります。後年サインに「S」つまり本名の「きよはる」ではなく筆名の「せいちよう」を使っているのです。ここに、晩年グローバルな作品に多く取り組み、海外の要人や著名人たちと接してきた作家の盛名が表れているような気がします。

初めは慣れない海外で忘れ物をしたりトランクを壊したりした清張ですが、八十二歳まで異国の大空を飛び回り続けました。その旅の記録は、亡くなるまで知識欲の旺盛だった作家、松本清張の姿を生き生きと物語っています。

（学芸担当 林 晓子）

## きよしとハルコの 探検！清張記念館

### “B1F 読書室”の巻

**きよし** 展示を見てたら清張の作品が読みたくなったな。

**ハルコ** そんな時は読書室よ。

全集が置いてあるから、大抵の作品が読めるわ。  
非売品の「松本清張写真集」も置いてあるのよ。

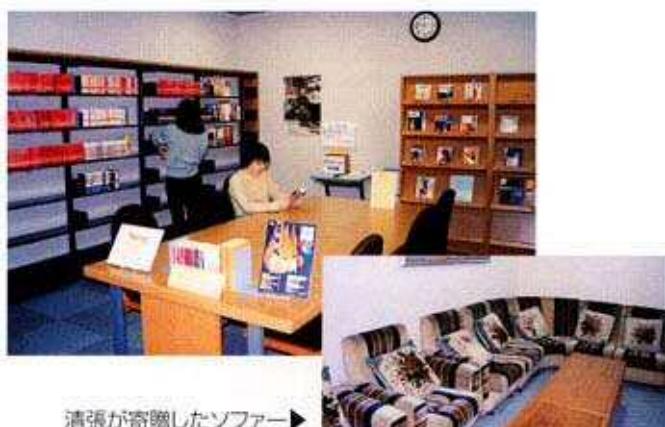
**きよし** 写真集? アイドルみたいだね。

**ハルコ** 別に本人が写ってるわけじゃないのよ。この写真集は、清張が海外取材のたびに撮っていた写真を、没後、家族が本にまとめたものなの。

**きよし** うーん。この写真の出来は取材の域を超えてるね。



松本清張写真集▶



清張が寄贈したソファー▶

**ハルコ** あ! このソファー、清張が日本推理作家協会に寄贈したもので、いろんな作家も座ったソファーで清張の本が読めるなんて感激!

**きよし** じゃあ、これに座ったら清張みたいに芥川賞が取れるかも! わー、結構座り心地がいいな。と思ったら急に眠気が。うーん。ムニャムニャ…。

**ハルコ** 絶対ムリね……。

清張も座ったソファーは、唯一触れることができる展示品。そこで清張作品を好きなだけ読める幸せ。「松本清張賞」受賞作も置いています。

情報ライブラリで検索するとなお便利、読書室はB1F、階段を下りてすぐです。



•お知らせ•

## 映画上映

記念館では毎月、松本清張原作映画のビデオ上映をおこなっています。  
3月・4月の上映作品は次の通りです。

入場  
無料

3月

「風の視線」 1963年／松竹 モノクロ:105分  
※松本清張出演作品

監督：川頭義郎  
脚本：楠田芳子  
出演：佐田啓二・新珠三千代・岩下志麻・松本清張

20日(祝)～26日(日)

①11:00～ ②14:00～

※うち、21日(火)は市民文芸講座のため上映はありません  
※上の日程以外の日も可能な限り上映を行います。

4月

「黒の奔流」 1972年／松竹 カラー:90分  
(原題:「種族同盟」)

監督：渡邊祐介  
脚本：国弘威雄・渡邊祐介  
出演：山崎努・岡田茉莉子・坂慶子

16日(日)～23日(日)

①11:00～ ②14:00～

※上の日程以外の日も可能な限り上映を行います。

●詳しい内容については、館内にて予告チラシを配布します。  
またはホームページでご確認下さい。

参加  
無料

## 市民文芸講座

現在開催中の「時間の習俗展」にちなみ、推理小説「時間の習俗」を各講師が独自の視点で読み解き、詳しい内容を解説します。

日時：平成12年

日時	講座	講師
3月 7日(火)	「清張ミステリーとトリックの醍醐味」	安間隆次氏 (文芸評論家)
3月14日(火)	「旅心—時空を駆ける」	小林慎也氏 (梅光女学院大学教授)
3月21日(火)	「『時間の習俗』の時代」	赤塚正幸氏 (北九州大学教授)
3月28日(火)	「清張と俳句」	今村元市氏 (郷土史家)

毎週 午後2:00～3:30

場所：松本清張記念館 地下【映像ホール】

北九州文学マップ

近代女性俳句の先駆け — 杉田久女

花衣ぬぐや織はる紐いろいろ

去了した。



① 堀町公園 句碑  
「花衣ぬぐや織はる紐いろいろ」

② 円通寺境内 句碑  
「三山の高嶺づたひや紅葉狩」  
「無憂華の木藤はいづこ仏生会」

の句に代表される天才的俳人。久女が小倉にやつて来た明治四十二年、松本清張もまた杉田久女は、明治二十三年鹿児島県に生まれ、明治四十年、旧制小倉中学校（現小倉高校）の美術教師となつた夫の杉田宇内と共に小倉に移り住んだ。兄の手ほどきで俳句を始め、高瀬虚子を生涯の師と仰ぎ、しばしば「ホトトギス」雑誌の巻頭を飾った。大正から昭和の始めという女性の社会的地位が未だ低い時代に、久女は俳句を心の擺りどころとしてその類い稀な才能を開花させたが、後に同人を除名されるなど、不遇のうちに昭和二十二年死

去了した。

治四十二年、松本清張もまたこの地に生を受けた。偶然同じ年に小倉に現れたこの一人の天才はお互いに顔を合わせることとは無かつた。しかしもともと関心を寄せていた清張は、俳句にかけた久女の心情に深い共感を寄せ、昭和二十八年、芥川賞受賞後第一作として「文藝春秋」八月号に、久女をモデルにした「菊枕」を発表した。

芥川賞受賞後第一作として「文藝春秋」八月号に、久女をモデルにした「菊枕」を発表した。

松本清張記念館のある小倉城エリアでクイズウォークがあります。3施設共通券の施設である「小倉城」「小倉城庭園」と当館の3施設をまわり、クイズに答えてスタンプを押せば豪華賞品が当たる、というものです。ぜひ、あなたも、チャレンジしませんか？

詳しくは、北九州市観光課 ☎ 582-2054  
または当館へ

2000年3月18日～4月2日  
**小倉城クイズウォーク  
2000**  
賞品は、ハワイ旅行 ベア1組、  
東京ディズニーランド ファミリー1組など

## 松本清張記念館 友の会のお知らせ

記念館では、清張作品の愛好者の相互交流や、より清張作品に親しんでいただくため、友の会をつくりたいと思います。

については、今春から会員の募集を開始する予定です。  
以下の内容で検討を進めています。

以下の内容で検討を進めています。

### 事業內容(案)

- 1.講演会、文学散歩、文学館巡り、文芸講座の開催、会報の発行等
  - 2.年会費は、3,000円程度
  - 3.特典は、常設展、企画展へのご案内、館の各種行事の案内、館報の送付、オリジナルグッズ贈呈など

発足は、平成12年夏頃をめざしています。詳しくは、記念館まで。

#### 資料提供のお願い

松本清張ゆかりの品をお持ちの方は  
記念館までお知らせ下さい

松本清張研究会  
**第1回研究発表会**

平成11年11月27日、立教大学において、「松本清張研究会」の第1回研究発表会が開かれました。

全国から、会員のほか一般参加も含め約九十人の参加があり、会場は熱気に溢れました。



熱帯本木の余地

当館館長藤井康栄の講演(演題「松本清張という人」)の後、山口大学人文学部助教授 石川巧先生による、研究発表(『松本清張の出発・「歴史小説」の方法と論理』)が行われました。参加者との活発な討議もあり、予定の閉会時刻を大幅に繰り下げるほど盛会でした。

(学芸担当 中川 里志)

## 研究誌『松本清張研究』 創刊号発行のお知らせ

平成12年4月中旬、研究誌「松本清張研究」創刊号を発行する予定です。記念館で販売しますが、電話・ファックスでの注文も受け付けます。主な内容（予定）は以下のとおりです。

編集後記

芸術講座や友の会など、みなさんとともに活動する記念館の事業が始まろうとしています。今まで同様、どうぞよろしくお願ひします。ご意見、ご感想をお待ちしています。

(太西 政實)



イラスト:山藤 亮二

細節，發行

松本清張記念館

T803-0813  
北九州市小倉北区城内2番3号  
TEL 093(582)2761  
FAX 093(562)2303  
<http://www.kid.ne.jp/seicho>  
制作 (有)エディックス

- 開館時間 午前9:30～午後6:00(入館は午後5:30まで)
  - 休館日 年末(12月29日～12月31日)
  - 観覧料 一般／500円(400円) 中・高生／300円(240円)  
小学生／200円(160円) ( )は30人以上の団体
  - アクセス JR：小倉駅から徒歩15分 西小倉駅から徒歩5分  
バス：小倉北警察署前／NHK前下車  
車：北九州高速高瀬・大字町取口より5分



松本清張研究  
創刊準備号好評発売中